

販売図録一覧

	書籍名	サイズ・ページ数	内 容	価 格
	特別展示図録 インドネシア・サダントラジャ展 ～水牛信仰の実際を探る～ 平成7年9月発行	変形A4 P37 全カラー	牛の博物館第1回特別展「インドネシア・サダントラジャ展」の解説図録。牛の信仰をもつトラジャの人たちの暮らし、水牛との関わりなど、トラジャに関する多くの資料を紹介しています。	1,200円
	第4回企画展 和牛 平成9年8月発行	A4 P18	和牛の起源や私たちの祖先が牛の改良を重ねてきた道をたどり、牛肉の食文化の歴史をたどっています。	300円
	<前沢町合併45周年記念> 前沢ゆかりの 五味清吉 展 平成12年10月7日発行	変形A4 P 37	五味画伯は、岩手県洋画壇の先駆的指導者であるとともに、前沢ゆかりの人でもあります。写実に賭ける画伯の美を鑑賞できる図版です。	1,200円
	第12回企画展 クローン 平成13年7月27日発行	A4 P19	人工授精から体細胞クローンまでの人工増殖技術の歴史を紹介しています。畜産技術の正しい理解、性の持つ意義などを探ります。	600円
	干支シリーズ4 家族で楽しむ企画展2002 ウマ・馬・牛 平成13年11月9日発行	A4 P15	ウマとウシは代表的な草食動物です。また、双方とも人と共に歩んできた歴史を持つ重要な家畜です。楽しいクイズ形式でウマの秘密や、かかわりについて解説しています。	500円
	第13回企画展 ミャンマー奥地の人と家畜 海外学術調査から 平成14年8月2日発行	A4 P15	民族のるつぼと言われる東南アジアは、古来多くの民族が移り住んできたところです。なかでもミャンマーは、民族構成をはじめ家畜種において多様な地域です。海外学術調査で収集した資料を紹介しします。	500円
	干支シリーズ5 家族で楽しむ企画展2003 羊は、牛ですか？ 平成14年11月12日発行	A4 P15	ヒツジは、ウシ科の動物です。どこがウシと同じで、どこが違うのか、分かり易く解説しています。	500円




	<p>干支シリーズ6 家族で楽しむ企画展2004 お猿さん</p> <p>平成15年11月19日発行</p>	<p>A4 P19</p>	<p>世界には2百種類ものサルがいます。動物学的には霊長類といって、私達人間も「裸のサル」とも呼ばれ、その仲間に含まれています。サルとウシ、そして人間との比較を解説しています。</p>	<p>500円</p>
	<p>第15回企画展 浮世絵にみるウシ(再販)</p> <p>平成16年7月22日発行</p>	<p>A4 P23</p>	<p>幕末から明治にかけて描かれた浮世絵・引き札・印刷をとおして、当時のウシの特徴や人とのかかわりを探ります。表紙のみカラー</p>	<p>500円 400円 (表紙にやや汚れあるため割引で再販します。ご了承ください。)</p>
	<p>干支シリーズ7 家族で楽しむ企画展2005 コケッコ</p> <p>平成16年11月25日発行</p>	<p>A4 P19</p>	<p>ニワトリってどんな動物でしょう。ウシと比較しながらニワトリを楽しく紹介しています。世界各国のニワトリの鳴き方にも興味が湧きます。</p>	<p>500円</p>
	<p>前沢ゆかりの続・五味清吉展 写実に賭けた生涯</p> <p>平成17年4月23日発行</p>	<p>変形A4 P51</p>	<p>牛の博物館では郷土資料の調査や収集もおこなっており、五十周年記念の先人顕彰事業として取り組み、前沢町ゆかりの五味画伯の写実に賭けた作品を披露しました。</p>	<p>1,500円</p>
	<p>牛の博物館開館10周年記念特別展 ザ、前沢牛</p> <p>平成17年7月29日発行</p>	<p>A4 P21</p>	<p>牛の博物館が開館してから十年。前沢牛の歩みや、その背景、どのように生産されているのか、そして流通までを分かり易く解説。</p>	<p>500円</p>
	<p>干支シリーズ8 家族で楽しむ企画展2006 わんわん&オオカミ!?</p> <p>平成18年2月10日発行</p>	<p>A4</p>	<p>イヌはいつ頃から飼われてきたのでしょうか。また、オオカミはどうして絶滅したのでしょうか。ウシと対比させ、楽しく解説します。</p>	<p>500円</p>
	<p>東西和牛ブランドシンポジウム記録集</p> <p>平成18年3月発行</p>	<p>A4 P28</p>	<p>牛博10周年記念事業でシンポジウムを開催した際の記録集です。地域の和牛ブランドを支える女性たちの取り組みの事例発表など参考になります。</p>	<p>500円</p>
	<p>干支シリーズ9 家族で楽しむ企画展2007 イノシシはブーと鳴く?</p> <p>平成18年12月8日発行</p>	<p>A4 P27</p>	<p>当館のテーマである「ウシ」は十二支の動物のひとつです。そこで、新年を迎えるにあたり、平成19年(2007)の十二支の動物である「イノシシ」の企画展を開催し、生物学、民俗学の両面から紹介します。</p>	<p>500円</p>

	<p>干支シリーズ 10 家族で楽しむ企画展 2008 ネズミにチュウもく？</p> <p>平成 19 年 11 月 23 日発行</p>	<p>A4 P13</p>	<p>医学や農畜産学などの発展のためにはなくてはならない大切な家畜であったネズミを、種類、歴史、生物学などいろいろな支店から紹介しています。</p>	<p>500 円</p>
	<p>牛の博物誌</p> <p>平成 9 年 9 月発行</p>	<p>B5 P24</p>	<p>当館の展示内容について解説・紹介しています。</p>	<p>500 円</p>
	<p>短角 北上高地のうし<短角>と人 ーアジア最東端の地が育んだ牛文化ー</p> <p>平成 21 年 3 月 31 日発行</p>	<p>A4 P7</p>	<p>北上高地で飼養されてきた短角が、そこに暮らす人々とどのように関わり、飼われているのかを文化的に探り、新たな短角の実像について紹介しています。</p>	<p>300 円</p>
	<p>干支シリーズ 11 家族で楽しむ企画展 2010 寅さん！なぜ牛には虎毛があるの？</p> <p>平成 21 年 12 月 6 日発行</p>	<p>A4 P13</p>	<p>肉食動物であり最大のネコ科動物であるトラは、発達した爪や歯を持っています。草食動物のウシとの相違点や文化・民俗からみたトラについて紹介しています。</p>	<p>300 円</p>
	<p>干支シリーズ 12 家族で楽しむ企画展 2011 ウサギのひみつ</p> <p>平成 22 年 12 月発行</p>	<p>A4 P13</p>	<p>ウサギはその愛らしさから、私たちの心を癒してくれるペットとして、また、食用や毛・毛皮をとるための家畜として飼われてきました。この愛らしい動物の意外に知られていない生態について紹介します。</p>	<p>300 円</p>
	<p>牛の博物館第 20 回企画展 世界の牛貨展ー財産からコインへー</p> <p>平成 23 年 7 月 20 日発行</p>	<p>A4 P30</p>	<p>英語でウシは“Cattle”といいますが、ラテン語の“Captale(資本・財産)”が語源と言われています。様々な国や地域のコインや紙幣に描かれたウシを通して、私たちとウシのかかわりを考えます。</p>	<p>500 円</p>
	<p>干支シリーズ 13 家族で楽しむ企画展 2012 土に住む竜ーモグラー</p> <p>平成 23 年 12 月 1 日発行</p>	<p>A4 P13</p>	<p>「竜」の文字を名前にもつ「モグラ(土竜)」。地中で生活する小動物になぜ、「竜」という文字が当てられているのでしょうか。身近な動物でありながら、よく知られていない生態や品種などを紹介します。</p>	<p>300 円</p>

	<p>牛の博物館第 21 回企画展 日本の銘柄牛 —ポスターに見る地域ブランド—</p> <p>平成 24 年 7 月 20 日発行</p>	<p>A4 P27</p>	<p>高級食材の代名詞ともいえる「銘柄牛」。日本中にはたくさんの銘柄牛が存在しています。安全性、独自性が求められる銘柄牛のありようを、ポスターを通して紹介します。</p>	<p>500 円</p>
	<p>千支シリーズ 14 家族で楽しむ企画展 2013 ジャジャジャ蛇〜ん</p> <p>平成 24 年 11 月 30 日発行</p>	<p>A4 P13</p>	<p>へびは、とかく嫌われがち動物の代表です。しかし、怖い面だけでなく私たちに利益をもたらすものとしての一面もあります。身近にいるへびのちょっと変わった生態や特徴を紹介します。</p>	<p>300 円</p>
	<p>牛の博物館第 22 回企画展 ふるさとの玩具</p> <p>平成 25 年 7 月 20 日発行</p>	<p>A4 P23</p>	<p>郷土玩具には、材料や製法などにその土地で培われてきた風土が反映され、農耕行事や祭礼などの習俗が根付いています。当時の信仰や生活がうつしだされた牛の郷土玩具を紹介します。</p>	<p>500 円</p>
	<p>前沢区小学校統合記念企画展 学び舎の思い出</p> <p>平成 26 年 2 月 15 日発行</p>	<p>A4 P17</p>	<p>平成 26 年 4 月 1 日から前沢区内の 7 つの小学校が 1 つに統合し、新しい一歩を踏み出します。学校の「たからもの」を通して前沢の小学校のあゆみをふりかえります。</p>	<p>400 円</p>
	<p>国立科学博物館・コラボミュージアム in 奥州 牛の博物館第 23 回企画展 「角—進化の造形」</p> <p>平成 26 年 7 月 19 日発行</p>	<p>A4 P19</p>	<p>社会的な機能が中心となる角は、そのデザインにおいては進化の自由度が大きく、多様な姿を見せています。国立科学博物館のヨシモトコレクションの剥製標本を中心に様々な角を紹介します。</p>	<p>500 円</p>
	<p>郷土の企画展 「奥州自然史紀行—地史編—」</p> <p>平成 27 年 2 月 28 日</p>	<p>A4 P15</p>	<p>奥州市では 5 億年前から現在にいたるまで、さまざまな時代の岩石や化石が見られます。市内各地の地質資料を集めて、奥州市の大地のおいたちを紹介しします。</p>	<p>500 円</p>
	<p>牛の博物館開館 20 周年記念企画展 「南部牛の姿をもとめて」</p> <p>平成 27 年 7 月 18 日</p>	<p>A4 P17</p>	<p>南部牛は、東北地方北部で飼育されていた在来牛です。南部牛は運搬、堆肥の供給を担い、厳しい東北での人々の暮らしを支えてきました。残された資料や、南部牛の血をひく日本短角種から、現在は見ることができなくなった南部牛の姿を探っていきます。</p>	<p>500 円</p>

	<p>牛の博物館第 19 回企画展 「厩の記憶」</p> <p>平成 22 年 7 月 29 日 発行 平成 27 年 11 月 28 日 第 2 版発行</p>	<p>A4 P38</p>	<p>牛馬は古くから私たちの暮らしに欠かせない大切な家畜です。牛馬を守るため、馬頭観音などの神仏とはべつに、厩猿(うまやざる)と呼ばれる牛馬守護の信仰がかつて全国的に行われました。奥州市に残る厩猿の頭蓋骨を集め、猿と牛馬の関わりを紹介します。</p>	<p>600 円</p>
	<p>郷土の企画展 「民俗芸能の動物たち」</p> <p>平成 28 年 2 月 27 日</p>	<p>A4 P17</p>	<p>ニワトリは夜明けを告げる鳥、ヘビは水をあやつる存在、神仏やその使いとなって民俗芸能に登場する動物は、昔の人々の自然への畏敬の念が具現化されたものです。奥州市に伝わる神楽などの民俗芸能に登場する動物たちを、地元資料をもとに紹介します。</p>	<p>500 円</p>
	<p>牛の博物館第 24 回企画展 「牛と鬼」</p> <p>平成 28 年 7 月 16 日</p>	<p>A4 P19</p>	<p>想像上の生き物である鬼は、なぜ人と似た外見をもち、ウシ科動物と共通する角をもつのでしょうか。角をきっかけに、牛と鬼の関わりを探り、人と牛との精神的なつながりを探ってみたいと思います。</p>	<p>500 円</p>
	<p>郷土の企画展 「奥州自然史紀行―鳥類編―」</p> <p>平成 29 年 2 月 25 日</p>	<p>A4 P17</p>	<p>鳥類は生態系の中は消費者であり、猛禽類などはその上位に位置しています。鳥類の多様性は、その地域の多様性を示しているとも言えます。大地の成り立ちによって異なる環境と人の暮らし、そこにすむ鳥を取り上げます。</p>	<p>500 円</p>
	<p>牛の博物館第 25 回企画展 「耕す一犁をひく家畜の風景」</p> <p>平成 29 年 7 月 22 日</p>	<p>A4 P21</p>	<p>家畜に田畑を耕させる犁耕は、荷物を運ばせる駄載と並んで家畜の役利用の中心です。日本各地の多様な在来犁の形態と各地域の環境や地理的・文化的な要因との結びつきを分かりやすく紹介します。</p>	<p>500 円</p>
	<p>郷土の企画展 「白鳥館の植物―一人里の草花―」</p> <p>平成 30 年 2 月 24 日</p>	<p>A4 P23 一部カラー</p>	<p>国指定史跡白鳥館遺跡は、現在にいたるまで、水田、宅地、屋敷林、植林が入り混じった里の環境を維持してきました。本企画展では、白鳥館において採集された草花を展示し、この地方の人里で営まれてきた自然と人の関係を紹介しします。</p>	<p>500 円</p>

	<p>牛の博物館第 26 回企画展 「牛飼いたちの仕事—飼養管理の昭和史—」</p> <p>平成 30 年 7 月 21 日</p>	<p>A4 P21</p>	<p>戦後しばらくは、各家庭で少数の牛を飼育し、耕作や荷物の運搬などに用いましたが、やがて肉・乳用牛に特化した飼育に替わっていきます。</p> <p>昭和の時代を中心とした飼養管理の道具と、牛飼いの仕事について紹介します。</p>	<p>500 円</p>
	<p>郷土の企画展 「白鳥館のすべて—中世の川湊から城館、そして現在—」</p> <p>平成 31 年 3 月 26 日</p>	<p>A4 P25 一部カラー</p>	<p>流通の重要拠点とされ、浄土の都市「平泉」を支えた国指定史跡・白鳥館遺跡出土の考古遺物、さらには畜産・漁労など、白鳥館で営まれてきた生業を紹介し、過去から現在にいたる白鳥館遺跡の歴史を解説します。</p>	<p>500 円</p>
	<p>牛の博物館第 27 回企画展 「アジアの在来家畜写真展—家畜とヒトの多様な暮らし—」</p> <p>令和元年 7 月 20 日</p>	<p>A4 P25 フルカラー</p>	<p>世界の家畜品種は数千～数万ともいわれますが、経済性が高い品種の普及で地域品種は失われつつあり、ヒトと家畜の関係は変容しています。</p> <p>在来家畜研究会員が世界各地での調査の際に撮影した写真から、家畜動物とヒトのかかわりの多様性を紹介します。</p>	<p>600 円</p>
	<p>郷土の企画展 「受け継がれる技、受け継ぐ心—地域をつなぐ北国の布文化—」</p> <p>令和 2 年 2 月 22 日</p>	<p>A4 P19 フルカラー</p>	<p>かつて、家族が身に着ける衣類の製作、管理、補修は、家の女性たちによって営まれてきました。</p> <p>本企画展では、岩手県前沢を拠点に活動を行ってきた「女わざの会」が、38年間の活動で収集・記録した布にまつわる岩手の手わざを紹介します。</p>	<p>500 円</p>
	<p>牛の博物館第 28 回企画展 「牛の美」</p> <p>令和 2 年 11 月 21 日</p>	<p>A4 P19 フルカラー</p>	<p>日本において牛は、人とともに働く動物で、誰もが接することのできる庶民の家畜でした。身近であるゆえに、縁起物や物語の題材にも牛が登場します。牛の博物館収蔵品コレクションの中からよりすぐりの牛の絵画と手工芸品を紹介します。</p>	<p>500 円</p>
	<p>牛の博物館 Web 企画展 「世界の牛切手」</p> <p>令和 3 年 3 月 31 日</p>	<p>A4 P95 フルカラー</p>	<p>切手という小さな画面に描かれた牛の姿には、お国柄や時代を反映した豊富な情報が含まれています。平成 8 年開催の企画展「切手にみる世界の牛たち」以降に受け入れた新資料を含め、改めて世界の牛切手を紹介します。</p>	<p>1,200 円</p>

	<p>牛の博物館第 29 回企画展 「大地に生きるウシー究極の反芻獣ー」</p> <p>令和 3 年 7 月 17 日</p>	<p>A4 P27</p>	<p>ウシ科動物は、草原に適応した感覚器官、消化器官、運動器官を備え、それによって生息域を広げ多様化しました。高度に特殊化したウシの体の特徴を、様々な標本で紹介し、また、ウシと生態系とのつながりを紹介し、これからのヒトと自然の関係を考えます。</p>	<p>500 円</p>
	<p>郷土の企画展 「胆江の近代画家たち ー五味清吉と佐々木精治郎を中心にー」</p> <p>令和 4 年 3 月 1 日</p>	<p>A4 P18 フルカラー</p>	<p>胆江地方を代表する画家である、五味清吉、佐々木精治郎らは、岩手県で初めて専門の画家として活躍した世代です。 五味、佐々木の作品を中心に、同時代に活躍した地元画家の作品を展示し、大正から昭和にかけての岩手県内での近代絵画の動向を紹介します。</p>	<p>600 円</p>
	<p>牛の博物館第 30 回企画展 「黒毛和種の源流をさぐる ー但馬地方の『蔓牛』と飼養文化ー」</p> <p>令和 4 年 7 月 16 日</p>	<p>A4 P29</p>	<p>黒毛和種を語る上で、兵庫県内で生産される系統牛「但馬牛」を欠かすことはできません。 但馬牛のふるさとである兵庫県但馬地方より蔓牛に関する資料をお借りして、独自の牛の飼養文化と、現在の肉牛生産につながる改良の歴史を紹介します。</p>	<p>500 円</p>